

都市再生整備計画

いなまち地区^{ちく}

ながのけん いなし
長野県 伊那市

令和8年4月

事業名	確認
都市構造再編集中支援事業	■
都市構造再編集中支援事業(地域未来交付金)	■
都市再生整備計画事業(社会資本整備総合交付金)	□
都市再生整備計画事業(防災・安全交付金)	□
まちなかウォークアブル推進事業	□

都市再生整備計画の目標及び計画期間

様式(1)-②

都道府県名	長野県	市町村名	伊那市	地区名	いなまち地区	面積	60.3	ha
計画期間	令和 8 年度 ~ 令和 12 年度	交付期間	令和 8 年度 ~ 令和 12 年度					

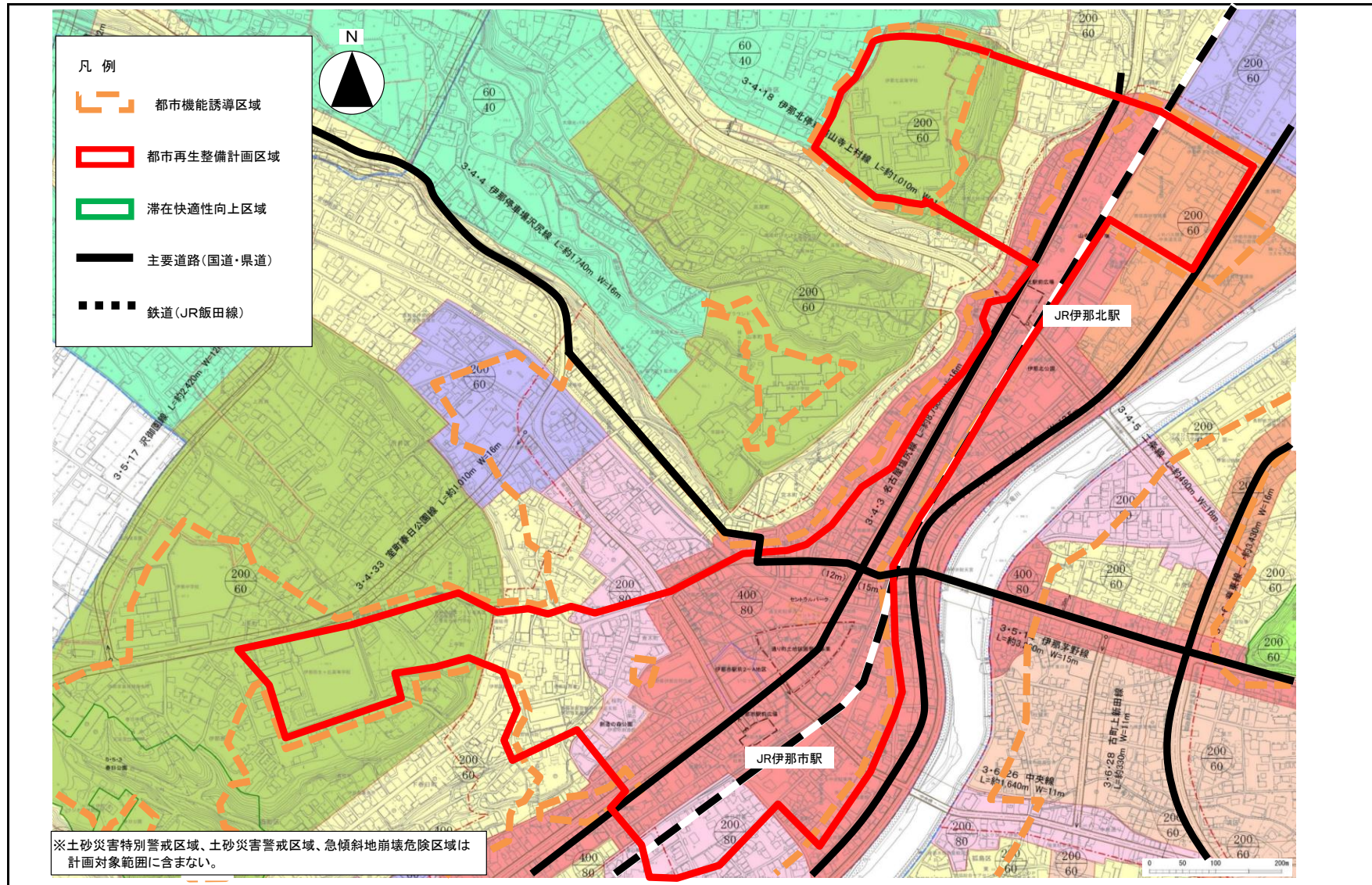
<p>目標</p> <p>大目標:伊那まち地区における居心地がよく、歩きたくなる持続可能な社会の実現</p> <p>目標1:伊那北駅周辺整備による駅周辺の賑わい及び交流の創出 目標2:伊那北駅周辺から伊那市駅における居心地がよく歩きたくなる歩行・滞留空間の創出 目標3:官民共創による新しいまちづくりによる交流・賑わいの創出 目標4:交通結節点機能強化、都市機能誘導区域及び居住誘導区域の生活利便性向上、歩行者の安全確保</p>
--

<p>目標設定の根拠</p> <p>都市全体の再編方針(都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用の方針を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針)</p> <p>伊那市は、長野県の南部に位置し、中央アルプスと南アルプスに抱かれた豊かな自然環境に恵まれ、市内中央を天竜川やJR飯田線、国道153号が縦断し、それに対して国道361号が交差するなど、交通の要衝として発展してきた。当市は「市民が主役のまちづくり」として市政を展開しており、官民共創による新しいまちづくりを推進している。これは、地域における人材の循環を含め、持続可能な社会の実現を目指すものであり、10年、20年といった長期的な視点から次世代へのバトンタッチを見据えた取り組みとして位置づけている。</p> <p>令和4年3月に改定した伊那市都市計画マスタープランでは、人口減少・少子高齢化をはじめとする時代の変化に対応するため、安全・安心で住みよい環境を継続させるコンパクトなまちづくりを目指すこととしている。</p> <p>令和4年3月に作成した伊那市立地適正化計画では、都市機能誘導区域と居住誘導区域を設定し、多様な機能の集積を図りつつ、コンパクトなまちづくりと公共交通を基本とした円滑な移動により、誰もが快適で多様な生活スタイルを実現することを目指している。</p> <p>特に、長野県内では高等学校の再編が進められており、当市では市街地にある伊那弥生ヶ丘高等学校と伊那北高校が「伊那新校(仮称)」として令和10年4月に統合(敷地は現在の伊那北高等学校)、更に令和17年以降に上伊那圏域の職業系高校が現在の上伊那農業高等学校に集約(上伊那技術新校(仮称))される計画で、この2校の最寄り駅が「伊那北駅」となる予定である。</p> <p>高校再編により伊那北駅を最寄り駅とする高等学校の生徒数が1.5倍になる見込みで、市内のみでなく、近隣市町村からの人の流入増加が見込まれる。これにより、市街地の人の流れが大きく変わることが明らかで、これを機運に市民の間ではまちづくりへの関心が高まっており、令和7年1月に「伊那市官民共創の新しいまちづくり協議会」を発足し、3つのワーキンググループを中心に具体的なプロジェクトを推進している。</p> <p>とりわけ、伊那北駅については、立地適正化計画の主要拠点として、交通結節点としての機能強化を図るとともに、駅自由通路や駅前広場等を居心地のよい歩きたくなる空間の起点となるように整備を行い、伊那市立地適正化計画で掲げる「公共交通を適切に利用できるまちづくり」の実現を目指す。</p> <p>まちづくりの経緯及び現況</p> <p>令和7年1月に「伊那市官民共創の新しいまちづくり協議会」が発足し、伊那北駅周辺のまちづくりを検討する「伊那北駅周辺再生ワーキンググループ」、閉校となる伊那弥生ヶ丘高校の空き校舎の活用を検討する「伊那弥生ヶ丘高校将来活用ワーキンググループ」、まちなかウォークアップなど市街地のまちづくりを検討する「まちなかエリア高度化ワーキンググループ」を編成した。この協議会では、市民との対話を重視し、市民間のつながりを作るとともに、思いを実現することを目指しており、キックオフイベントには10代から70代まで幅広い年代層から約230名の参加があり、市民のまちづくりに対する関心が高まっている。</p> <p>県立高校の再編により新たな高等学校の開校が令和10年4月に迫っており、最寄り駅である伊那北駅は、歩行者の安全に大きな課題があることから、施設整備が急務となっている。</p> <p>また、市街地における歩行者の動向に大きな変化が生じること予想されることから、市街地に多くの歩行者が行き交い、滞留することを目指して、居心地のよい歩きたくなる空間整備の取り組みを進めることを検討している。</p> <p>さらに、閉校となる伊那弥生ヶ丘高等学校は、市街地の中心にある伊那市駅に近く、将来的な活用により市街地に与える好影響が期待できるため、ワークショップ等による市民や企業等のニーズや、AIカメラによる伊那市駅及び伊那北駅周辺の交通量、利用状況の定量的な把握を図っている。</p> <p>これらの事業を推進することで、まちの核である市街地に公共交通で移動することができ、医療や金融、商業など生活に必要なモノ・コトを、中心市街地に行けばワンストップ的に済ませることができる集約都市の形成を目指す。</p>

<p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伊那北駅利用の主な目的が高校生の通学であることや、交通結節点の機能不全、駅周辺の滞在スペースの乏しさ等から、地元住民と、高校生やその他地域住民等との交流機会が激減している。 ・伊那北駅利用者の増加が見込まれる中、伊那北駅周辺には交流・滞在スペースが乏しく、利便性が悪い。 ・伊那北駅周辺から伊那市駅の両駅間において、多くの空き店舗がある上、滞在空間が少なく、歩行者にとっての滞在快適性が確保できていない。 ・主要な公共交通であるJR飯田線、JRバス高遠線、市街地循環バスが連結する交通結節点がない。 ・伊那北駅駅前広場では、歩行者と車両の動線が交錯しており、歩行者の安全が確保されていない。 ・伊那北駅前交差点を起点に、朝晩、交通渋滞が発生している。 ・自家用車の使用が生活上、欠くことのできない交通手段だが、高齢化に伴う運転免許の返納が増加等から、利便性の高い公共交通の再編が求められている。

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>【伊那北駅及び駅周辺の整備による交通結節点及び交流拠点の強化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歩行者と車両の動線を分離するため、駅前広場を拡張し、ロータリーと広場空間を明確に区分け(賑わい創出、安全性確保)。 ・伊那北駅周辺にある市街地循環バス等のバス停を伊那北駅に集約し、交通結節点として機能強化を図るため、必要なスペースの乗降空間を確保。 	<p>【基幹事業】(地域生活基盤施設)伊那北駅前広場整備(西口) 【基幹事業】(地域生活基盤施設)伊那北駅前広場整備(東口) 【協定制度等】公共交通の再編・市街地循環バスの駅前広場停留所設置</p>
<p>【交流拠点施設の整備と東西自由通路の設置】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駅舎を単なる交通施設から、官民共創による賑わい交流、滞在創出空間へと刷新(新設)。 ・駅舎待合スペースを若者賑わい・交流拠点施設として整備し、駅利用者や地域住民の交流を図る市民が主体のまちづくりを実現する駅前空間を整備。 ・伊那北駅周辺の賑わい創出、渋滞対策のために、天竜川東側から来る送迎車両の乗降場所として駅東側に駅前広場を新設するとともに、東西自由通路を設置し、歩行者の安全性と利便性を向上。 	<p>【基幹事業】(道路)伊那北駅自由通路整備(地域未来交付金) 【関連事業】(拠点整備事業)地域賑わい・交流拠点施設(地域未来交付金)</p>
<p>【滞在快適性向上区域の設定と居心地のよい歩きたくなるエリアの拠点整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伊那市駅～伊那北駅周辺地域を滞在快適性向上区域としてビジョン策定。 ・居心地のよい歩きたくなるエリアの起点として伊那北駅駅前広場を整備。 	<p>【関連事業】(ソフト事業)伊那まち周辺ウォーカブルビジョン策定(地域未来交付金) 【関連事業】(ソフト事業)まちなかウォーカブル交流促進拠点整備(通り町駐車場広場)(地域未来交付金) 【関連事業】(ソフト事業)まちなかウォーカブル交流促進拠点整備(山寺駐車場広場)(地域未来交付金) 【協定制度等】一体型滞在快適性等向上事業</p>
<p>その他</p>	
<p>【官民共創の新しいまちづくり協議会の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エリアプラットフォームとして編成した「官民共創の新しいまちづくり協議会」では、伊那北駅周辺再生ワーキンググループ、まちなかエリア高度化ワーキンググループ、伊那弥生ヶ丘高校将来活用ワーキンググループを設置。 ・これらのワーキンググループを軸に、「対話・つながり・実現」をコンセプトに、まちづくりのプレイヤーや市民、事業者、行政が対等な立場で議論し、具体的なアクションへとつなげる仕組みを強化。 ・対話を通じてそれぞれ「対等な関係をつくる」ことで、より効果的な対話の場を継続的に設けることを目指し、市民が当事者意識を持つことでまちづくりへの機運を醸成し、ゆるやかなコミュニティが生まれる場を育てていくことを目指す。 <p>【重点的に取り組むテーマ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若者・多世代の定着と交流促進: 新設高校の開校を契機とした若者の動態変化を捉え、駅周辺、高校跡地、まちなかの各エリアで、若者を含む多様な世代が交流し、地域に愛着を持つことができる環境を整備。 ・地域資源(歴史・文化・自然)の再評価と活用: 伊那弥生ヶ丘高校の歴史や、まちなかのレトロな魅力、伊那市が持つ豊かな自然環境を都市再生の核とし、地域固有の価値を創出・発信。 ・持続可能なまちづくりに向けた官民連携の強化: 公共投資だけでなく、民間活力を最大限に引き出し、収益性も視野に入れた事業モデルの構築と、市民・事業者・行政が一体となったエリアマネジメントを推進。 	

いなまち地区(長野県伊那市)	面積	60.3 ha	区域	伊那市山寺区、坂下区、荒井区、西町区の一部
----------------	----	---------	----	-----------------------



いなまち地区(長野県伊那市) 整備方針概要図(地域未来交付金及び都市構造再編集集中支援事業)

目標	大目標: 伊那まち地区における居心地がよく、歩きたくなる持続可能な社会の実現 目標1: 伊那北駅周辺整備による駅周辺の賑わい及び交流の創出 目標2: 伊那北駅周辺から伊那市駅における居心地がよく歩きたくなる歩行・滞留空間の創出 目標3: 官民共創による新しいまちづくりによる交流・賑わいの創出 目標4: 交通結節点機能強化、都市機能誘導区域及び居住誘導区域の生活利便性向上、歩行者の安全確保	代表的な指標	まちづくりに主体的に関わる住民数 (人/年)	230 (R6年度)	→	380 (R12年度)
	公共交通の利用者数 (人/日)		1,930 (R6年度)	→	2,560 (R12年度)	
	踏切横断車両数 (台/5h)		492 (R6年度)	→	440 (R12年度)	

